

この学校にわたしたち

2022. 11. 7

N043

すぐそばに本があるっていいですね

ある有名な作家が「これまで何冊くらいの本を読みましたか？」と尋ねられ、「800冊か900冊くらいだ」と答えたそうです。質問をした人はその数が予想より少なかったため、大変驚いたそうです。このエピソードを管 啓次郎さんという人は「読むことの濃度はそれぞれであり、“冊”という単位には意味がない」と言い切っています。管さんは詩の読書について「1行が心をとらえることがある。1行がきみを変えることもある」と著書の中で述べています。今、本を読むとき、書店や図書館に足を運ぶだけでなく、電子書籍など無数の本に出会うことができます。私は電子書籍が苦手です。専ら書店にいき、時間をかけてゆっくりと楽しみながら本を選びます。本の読み方は人それぞれで、「何を」「どう読むか」も人によって違うことと思います。「1冊の本を10回読む」こともよいでしょう。読む時の自分の環境・心境・年齢によっても読み方が変わってくるでしょう。また、繰り返し読むことで自身の血肉となっていくでしょう。また「10冊の本を読む」こともよいでしょう。それは本によっても違うかもしれませんが、「座右の銘」という言葉がありますが、「座右の書」となる本をお持ちの方がいらっしゃるかもしれませんね。読書は言語力を身につける近道であると同時に、創造力を高めるためにも大切であると思います。「本を読みなさい」と言われて読めるものではありませんので学校では図書館司書やボランティアの方がたくさんの知恵を出しながら環境整備をしてくださっています。学級によっては引き出しの中に常に本を入れておき、ちょっとした時間ができた時に読むように指導をしているところもあります。私も担任の時にはそうしてきました。

日が暮れるのが日ごとに早くなり、夜長に読書をするのが心地よい季節となりました。子どもたちのすぐそばに本がある…そんな風になってほしいなあと思います。

陰で支えていただいている方に思いを馳せる…

2学期も後半に差し掛かり、老人会など地域の方に学校に来ていただいたり、公民館や八対野教育文化会館の行事に子どもたちが参加させていただいたりするなど地域の方と触れ合う機会が多くなってきました。先日は、八対野教育文化会館の児童学習会の活動の一つとして福田 信男先生の畑をお借りしてさつまいも掘りをさせていただきました。春から秋までずっと管理をいただいた他、子どもたちがスムーズに活動できるように午前中に教育文化会館の主事 村川 玲子さん・玲子さんのお母様・白山教育事務所の岩野 有香さん他たくさんの方がつるの処理をいただきました。先日は5年生が川の見学に行った際、村川さんの家に車を停めさせていただくとともにお母様が子どもたちが滑らないようにと落ち葉を掃いていただいたと聞きました。目に見える部分でなく、その陰で支えていただいている思いに気づかせる…まずは私たち大人からだと思いました。